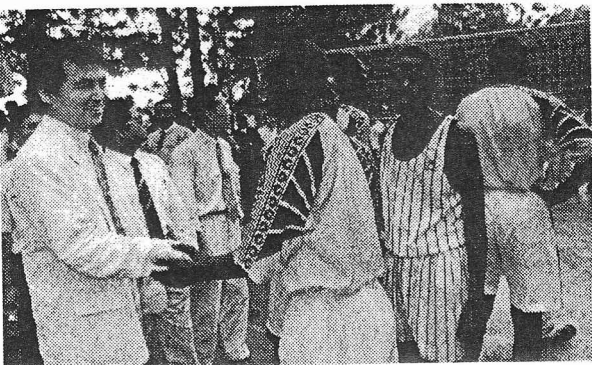


# ルワンダの学生を バレーで勇気づけ

AMDA代表、現地でボールなど寄贈

## 即席試合 交流深める

岡山市に本部を置く民間活動団体「アジア医師連絡協議会」(AMDA)の菅波茂代表が、アフリカのルワンダを訪れ、バザーで集めたバレーボール五個とユニフォーム三十着、空気入れを首都キガリから約九十キロ離れた山中の山村、ギトゥエ地区のエスパス中・高校に寄贈した。



AMDAの菅波代表に握手を求めるエスパスのバレー部の選手たち(ルワンダ・ギトゥエ)

世界十八か国に支部を持つAMDAは九四年から昨年十月まで、ルワンダ難民救援のため、コンゴ民主共和国(旧ザイル)で活動を続けた。難民キャンプで働いていた看護婦から、難民がバレーボールで勇気づけられたとの報告を受け、キャンプで主将をしていたエマヌエル・ムバンディムウエ君(九の母校への寄贈を決めた)。

ルワンダ内戦を逃れて難民キャンプで暮らしていたムバンディムウエ君は昨年十二月、今度は旧ザイルで起きた内戦を逃れて祖国に戻り、エスパス校に入学した。将来、教師を目指すかたわら、同校バレーボ

ル部の主将としても活躍している。

同校では、ジェラルド・ウライエネザ校長と全校生徒八百五十二人が、菅波代

表とAMDAキガリ事務所「は」と話していた。ギトゥエ地区の病院では、内戦で医療器具の大半を略奪され、現地の医師二人と看護婦十人が、三十万人の患者を診療している。AMDAは来年、政府の草の根無償資金一千万円を利用し、外科手術などが可能となるよう、病院再建の支援も予定している。(ルワンダ・ギトゥエで、吉形祐司、写真も)

「また、日本の人たちとバレーを楽しむたい。いつか、日本を訪れる機会があれば、結果は、15-7でエスパス側の勝利だった。ムバンディムウエ君は

